



昭和35年ごろの野洲川(国土交通省より提供)



立入測量に反対する人々



流々大河②

野洲川の改修調査と地元の反対

現在の野洲川が通水してから40周年を迎えました。本シリーズでは、市民に親しまれる現在の野洲川ができるまでの歴史を振り返ります。

昭和28年の台風13号による水害を契機に「未来永劫にわたって安心できる川にしてほしい」という願いが高まりました。昭和29年に旧野洲郡13町村で「野洲川漏水対策期成同盟会(のちに野洲川改修促進協議会)」が結成され、県や国へ働きかけた結果、昭和33年に国の直轄事業として調査が開始されました。

そして、昭和38年に国から示された調査結果は、新庄町川辺の全戸と小浜の一部を移転し、中洲の田畑190haを貫通し中洲地区を分断する幅330mの新しい河川、「野洲川放水路」を建設するというものでした。

この結果に、地元からは「南北流の改修は陳情したが、中洲地区貫通の人工河川は地元の主張と期待を裏切り多数集落の立ち退きを強要し耕地を農民より取り上げ、生活権を奪うものである」と反発の声が上がり、「野洲川改修中洲地区貫通反対期成同盟会(のちに野洲川改修中洲地区対策委員会)」が結成され、大きな反対運動が起こりました。

解決の糸口が見いだせないなか、地元選出国会議員の宇野宗佑さんたちが仲介人となり、国と地元との交渉が重ねられました。

統計

おはなしの

「統計」は世の中の状態を教えてくれる数値



国勢調査や経済センサスなど、国や地方自治体は定期的にさまざまな統計調査を実施しています。

行政が行う統計調査の種類や活用について学ぶシリーズです。

「統計」と聞いて、皆さまはどんな印象を持っていますか。

私たちは体温計や血圧計、健康診断などを利用して身体の状態を知ることが出来ます。同じように社会や経済の状態を測るのが「統計」です。

統計がなければ、世の中の状態を正しく把握することができません。

景気の状態によって求人倍率や地価の動向や失業率など、統計に基づいた社会や経済の状況がテレビなどでもよく取り上げられます。

これらの動きは何となく、肌で感じることもありますが、具体的に数字で示すことができないと、国や自治体は政策を組み立てることができません。



せん。それを知るためには、実際に調べてみるしか方法がないのです。

実際に調べてみて、それを数値化したものが「統計」です。「統計」は国や地域のさまざまな状態を正しく示す大切な情報として欠かすことのできないものなのです。